

官版

海外新聞

大學南校

自一號
至五號



報部文庫
117
88
/



117
88
1

緒言

佛普兩國近日ノ騷乱ハ實ニ輓近歐洲未曾有ノ
一大戦争ニ及ントスルノ形状タレハ急ニ之ヲ
譯出シテ世ニ布キ人ニ知ラシムルニ在リ唯此
新聞前後齟齬スル所アリテ明瞭完全ナラザル
ハ遺憾ナキニ非ラスト雖モ率子横濱刊行ノ西
洋新聞紙中ヨリ抄出スルモノニシテ殊ニ傳信
機ノ告知ニ出ツルカ故ナリ讀者宜ク之ヲ恕シ
テ其槩畧ヲ知ルニ在シノミ

此度佛蘭西國ト普魯士國トノ間ニ生シタル騷
乱ノ原由ヲ尋ルニ佛國ハ固ヨリ歐洲第一ノ最
大強國タルハ衆人ノ普ク知ル所ニシテ普國モ
亦千八百六十六年我慶應二年奧地利及ヒ日耳曼列
國トノ戦争ニ大捷ヲ獲タルヨリ以來北方日耳
曼ノ小國ヲ併合シテ其勢殆佛國ニ頡頑セント
ス加シテ加之其執政ニビスマルクト云ヘル者アリテ
心ヲ國事ニ竭シ日ニ國力ヲ増シ月ニ境界ヲ廣
メントノ謀ヲ運シ且其境域佛國ト相接スルヨ

リ兩雄相競ヒ遂ニ兩國相忌ムノ意ヲ生スルニ
至リシト是已ムヲ得ザルノ勢ニシテ既ニ千八
百六十七年我慶應三年荷蘭ノ属地盧森堡ノ事ニ付
キテモ佛普兩國間ニ議論ヲ生シ殆ント戦争ニ
及ハントセシニ當時ハ英國ノ勸解ニ因リ終ニ
事ナク和平ニ至レリ然ルニ又千八百六十八年
我明治元年西班牙國民政府ニ背ムクアリテ其女
主ヲ逐ヒ假ニ政府ヲ設ケ暫ク國內ヲ治メシカ
其政府ハ元來假ニ設シニ因リ更ニ真ノ政府ヲ

立ツベキ為メ歐洲諸國ノ帝王ノ親族中ニ於テ
人望アル者ヲ撰ミ國王ト為サント欲シ遂ニ普
王ノ近親ナルホーヘンソルレルン侯ヲ迎立セ
ント定メ侯モ亦其事ヲ承諾セシカ佛帝ナポレオン佛帝拿破崙破レ崙
ハ普國政府ニ於テ嘗テ西國ノ事ニ付キ證ヲ立
タルノ故ヲ引キ普王ニ其親族中ノ者ヲシテ西
國ノ王位ニ昇ラシムルヲ禁ス可シト言送レ
リ故ニ普王モ亦其言ニ從フ可キノ約ヲ為セシ
ニ佛帝ハ尚其意ニ滿タスシテ更ニ日後此侯ヲ

再ヒ西國ノ王位ニ昇ラシメザラントヲ欲セリ
然ルニ此事ニ至リテハ普王ノ肯セザルニ因リ
佛帝ハ又普王ニ若シ此事ヲ肯ゼザルニ於テハ
必ス戦争ニ及フ可シト言送レリ普王ハ國力ノ
強盛ナルニ因リ敢テ畏怖スルノ意ナシ遂ニ此
事ヨリシテ此戦争ニ至リシトナリ
譯者按スルニ此騒乱ノ原由ハ必シモ此一事ニ
アラスシテ他ノ事由ト相連リシモノナル可シ
然レ未タ其事ヲ明白ニセサルニ因リ此ニ掲言

海小新聞
三
大學南交

スルヲ能ハス若シ異日其事由ヲ聞知スルニ於
テハ速カニ之ヲ譯出ス可シ

佛普兩國ノ人口、兵數、船數等凡左ノ如シ

佛蘭西

人口 三千八百万

國帝拿破崙第三世

陸軍 百二十万

海軍 船數五百艘

普魯士 北日耳曼列國ヲ合算ス

海軍 船數八十七艘

國王フレデリックウイレム第一世 陸軍 百万

人口 三千万

海軍 船數八十七艘

明治庚午孟秋

箕作麟祥 誌

海外新聞一号



千八百七十年第八月十六日
我六月十七日横濱日
刊新聞ヨリ抄出

第七月十四日
我六月十六日倫敦ニ於テ

巴黎ヨリノ報告ニ曰佛蘭西國ノ外國事務執政

コントグラモン氏ハ議院ニ於テホーヘンソル

レルン侯ノ西班牙國王ノ位ニ昇ラントセシ事

ヲ其侯ノ自ラ止メタルノ旨ヲ陳述セリ

佛蘭西ニテハホーヘンソルレルン侯ノ西班牙

國王ノ位ニ昇ラントセシヲ自ラ止メタルノミ
ニテハ未タ満足ナリト思ハス普魯士國ヲシテ
日後此族ノ再ヒ西班牙國王ノ位ヲ得ント希フ
事無ル可キノ保証ヲ為サシメント欲シタリ
第七月十五日我六月十七日普魯士國王ハ去十三日ノ
午後ニエムス府ノクルガルテンニ於テアヂユダ
ント官ノ者ヲ伴ヒ散歩セシ時佛國公使ベ子ズ
升氏其所ニ来リテ此度佛普兩國ノ間ニ起リタ
ル難事ニ付キ強テ普王ノ意ヲ承知シタキ由ヲ

述ヘタリ普王ハ身ヲ背ケテ答ヲ為サス唯アヂ
タントニ向ヒ余ハ佛國公使ニ其事ノ答ヲ為ス
事ヲ欲セス且以後其公使ヲ接待スルヲ好マサ
ルノ意ヲ通ス可キノ旨ヲ命シタリ
普都ノ泊靈ニ於テハ戦争ノ用意ヲ為シタリ
同日巴勒ニ於テ
戦争ノ事件ヲ佛國ノ政府ヨリハ未タ其議院ニ
報告セス
佛國ニ於テハ益々兵備ヲ為セリ

此日ノ午後ニ佛國執政ハ元老院及ヒ議院等ニ
於テ自國ト普國ト互ニ戰書ヲ取替セタルヲ
告ケ知ラセタリ

佛蘭西國ト普魯士國トノ戰爭

荷蘭ハ中立國タル可キ事ヲ佛普ノ兩國ニ言送
レリ
此判時ハ佛國ヘノ答ニ中立國トナルヲ得ベ
キヤノ旨ヲ述べ且既ニ國境ニ警衛ノ為メ兵ヲ
出セシヲモ言送レリ

佛普ノ兩國ニテ皆比利時ノ中立國タルヲ許セ
シトノ風説アリ

佛國ノ議院ニテ陸軍費用ノ為メ五千万ポンド
我ニ万五千
兩余ニ當ル
海軍費用ノ為メ千六百万ポンド
我ニ萬五千
兩余ニ當ル
高ヲ給セントノ決議ヲ為シタリ
佛國ノ議院ニテ國內ノ守衛隊ヲ徵シ集メ且義
勇兵ヲ募ル可キ事ヲ決議シタリ

普國ノ兵ハルドント云ヘル村落ノ近邊ニ於
テ佛國ノ境内ニ入り盧森堡ルキセユルグ荷蘭ノ國境ニア

ル鐵路ヲ打毀チテ引退キタリ

第七月十九日我六月二十一日ニ北日耳曼ニテ議事堂

ヲ開キタリ

北日耳曼ニテハ皆其兵ヲ募リ集メタリ

巴城里亞國王ハ普國ニ與セントスルノ意ヲ以

テ自國ノ兵ヲ募リ集メタル由ナリ

海外新聞一号畢

海外新聞二號

千八百七十年第八月十八日我七月二十二日横濱

刊行ジャツパン、ヘラルド新聞ヨリ抄出ス

傳信機新聞○歐羅巴戦争

第七月二十日我六月二十二日倫敦ニ於テ

英吉利ハ全ク局外中立タル可キノ布告ヲ倫敦

新聞ニ記ルセリ

本日ヨリ四日ノ内ニ佛國ノ兵卒ハ三十五萬人

程モ其國境ニ屯聚ス可シ

佛普ノ兩國ニ於テ愈々ニ戰書ヲ取替スニ至ラ
ハ即時ニ戰ヲ始ム可シ
北日岬漫ノ議院ニテハ佛國トノ戰爭ニ付キ其
費用トシテ一萬二千萬タールル我九千百三十
ノ高ヲ出サント決議シタリ
薩索尼及ヒ墨西ノ兩國ハ普國ニ與セリ
意大利ハ佛普ノ兩國間ニ中立シテ戰爭ノ模様
ニ注意ヲ為サントノ事ヲ告知シ既ニ豫備ノ為
メ兩度新兵ヲ募リ集メタリ

愛爾蘭ノ首都都柏林ニテハ佛國ヲ援ケントシ
テ大ニ動搖シタリ
歐羅巴大陸ノ為替座ニテハ其為替ノ分割ヲ増
シタリ

最近新聞

第七月二十一日 我六月二十三日 倫敦ニ於テ
普國ニテハ英國ノ和解ヲ拒ミタリ
瓦敦堡國ハ普國ニ與シ奧地利ハ中立シテ戰爭
ノ模様ニ注意セリ

新聞紙ニ關係セル者ハ總テ佛國及ヒ普國共ニ其軍中ニ連レ行クヲ許サズ

英國ノ政府ニテハ其士官ニ此度ノ戰ニ付キ新聞紙ノ諸局ト音信ヲ通スルヲ禁シタリ

英國ノ新聞紙ニ此度ノ戰ヲ起シタル責ハ佛國ノ方ニアル可シト云ヘリ

同日倫敦ニ於テ

日耳曼ノ南方ノ諸國巴威里亞、瓦敦堡、ハ皆戰ノ

費用ニ供スル金ヲ出ス可キヲ決議シ佛國ト戰

フベキヲ告知シタリ

普國ノ太子フレデリック、ウィルレムハ既ニ南方日

耳曼ノ兵隊ヲ指揮セリ

奧地利ハ未タ兵ヲ動カスヲ無ク只戰ノ模様ヲ

見テ中立ヲ為サントセリ

佛兵ト普兵ト未タ小戰爭ヲモ為スヲ無シ

第七月二十二日我六月二十四日倫敦ニ於テ

ケール萊尼河邊ニ在ルノ橋ヲ毀チタリ

普兵ハ初メ盧森堡、荷蘭ノトハラチ子ト日耳曼西

方ノトノ間ニ屯聚セレカ方今ハコブレ^{ンツ}國普
一部ノ間ニ屯聚セレカ方今ハコブレ^{ンツ}國普
都府ノ名及ヒメインツ上ノ方ニ引退キタリ

英國ノ執政グレットスト^{ーン}氏ハ佛國ト^ズ連國ト

間ニ新ニ條約ヲ結ヒタルトノ説ノ訛傳ナル

ヲ陳述セリ

英國ノ政府ハ自國ノ諸港ヨリ兵船ノ出帆スル

ヲ禁ス可キノ命ヲ下サントセリ

普王ハ其首都^{ベル}リンノ府會ノ議負ヘノ答ヘニ此

度戰ヲ起スノ責ハ自己ニアルヲ無ク佛國ノ期

望スル所甚タ道理無クレテ之ヲ許諾スルヲ能
ハズト云ヘリ且此度ノ戰爭ハ必ズ重大ナル事
ニ成行ク可クシテ自國ノ損失モ亦必ズ大ナル
ベキヲヲ説キタリ

普國ノ太子ハ日耳曼南部ノ兵ノ將帥ニ任セラ

レタリ

佛國ノ議院ニテハ陸軍費用ノ為メ四萬四千萬

フランク我^ハ千八百萬海軍費用ノ為メ七千萬

フランク我^ハ千四百萬ヲ給シ又陸軍新募ノ兵數

ヲ十四萬人ニ増シタリ

同日倫敦ニ於テ

普國ノ首都**柏林**ノ議院ヲ開キシ時國王ノ告諭ニ曰日耳曼ハホーヘンソルレルン侯ノ**西班牙**國王ノ位ヲ得ント欲セシトニ少シモ關係シタルコトハ恰モ第一世拿破崙帝ノ時ノ如シト雖凡方今ハ日耳曼ノ數國皆合同スルニ因リ相與ニカヲ合セテ敵ヲ防ガハ外寇ヲ退クルヲ得

可シト○普王又曰此度ノ戰ヲ起スノ責ハ佛國ノ君ノ自己ノ欲ヲ達センガ為メ其國民ノ心ヲ挑撥セシニ在リ我日耳曼ニ於テハ唯永ク和親ヲ結ンテヲ欲スルノミト

佛國ノ新聞紙ニハ英國ノ執政グレットストーン及ヒヂスレーリノ兩氏ノ共ニ中立ヲ旨トス可キ言葉ヲ述タルヲ以テ之ヲ誹謗シタリ英國ハ佛國ニ與タリト云ル說有レモ全_レ謬傳ナリ荷蘭ノ近海ニテ砲聲ヲ聞ケリ

傳信機新聞○佛普兩國ノ戦争

第七月十八日我六月二十日倫敦ニ於テ

佛帝拿破崙ハ其太子ト共ニ國兵ノ惣督ヲ為ス
 可シマクマホンバセイヌカンロベール等ノ諸
 將ハ皆其軍ニ從行ス可シ佛帝ハ不日ニメッツ府
 普魯士國境ニ至ル可シ但シ此地ニハ既ニ十
 近キ佛ノ府名ニ至ル可シ但シ此地ニハ既ニ十
 二萬ノ兵士ヲ集メ備ヲ為シタリ
 又佛兵ハメッツ府ノ近邊ニアルチランウイールト
 云ヘル地ニ屯集セリ

普兵ハロングウー佛村ノ屬スルノ近邊ナル佛國

ノ一村ヲ掠取シタリ

佛國ノ政府ヨリ日耳曼南部ノ諸國へ此度ノ戦
 争ニ於テハ皆中立タルヘキヤ否ヤ其即答ヲ為
 ス可キヲ促シタル劫迫ノ意ヲ含ミシ書簡ヲ
 贈リタリ

巴威里亞國王ノ普國ニ與シタルト云ヘル説ハ
 確説ナル由ナリ

佛普兩國ノ政府ヨリ盧森堡ノ中立タルヲ許諾

セシトヲ荷蘭ノ政府ニ言送りタリ

荷蘭ノ政府ニテハ兵ヲ召募セリ

佛國ノ新聞紙ニ意太利ト噀國トハ共ニ中立タ

ル可キトヲ記ルセリ

方今ハ最早西班牙ト佛蘭西トノ間ニ不和ノ意

アルト無シ

普國ノ甲鏡船四艘英國ノプリマウス港ヲ出帆

シテ自國ノ方ニ赴ケリ

佛國ノ快船一艘之ヲ追フテ出帆セリ

佛國ノ兵船隊ハドブル間ノ海峡トノヲ越ヘテ普

ノ方ニ至ル可シト思ヘリ

魯西亞ハ普國ニ與シタリ

第七月十九日 我六月廿一日

英吉利ノ中立タル事

ヲールグレンウルク氏事務執政外國上院ニ於テ此

戰爭ノ事ニ付キ陳述セシ言葉ニ英國政府ハ十

分ニ思慮ヲ定メ少シモ動搖スルト無ク中立國

ノ權ヲ保守シテ公平ノ正理ニ據リ處置ヲ為シ

戦争ノ止ム可キ模様アル時ハ速ニ歐羅巴全洲
ヲ平穩ニ為シ互ニ和親ヲ結ハシムルヲ周旋
ス可シト云ヘリ

第七月二十二日我六月廿四日倫敦ニ於テ

佛國ノ政府ニ於テ各國ニ在留セシメタル公使
ニ達セシ廻文ニ曰ク八百六十九年普國ノ政府
ニ於テハホーヘンソルレル侯ノ如キ其國ノ
王族ヲ決シテ西班牙國ノ王位ニ昇レシムルヲ無
カル可シト云フノ証ヲ立テタリ然ルニ此度普

國ノ執政コウントビスマルクハホーヘンソル
レル侯ヲシテ西班牙國王ノ位ヲ得ント競ヒ
求メシメ且此侯ノ一度王位ニ昇ルヲ得ル時
ハ強テ佛國ニモ亦其事ヲ兼諾セシメント欲ス
ルノ意アルヲ明ニシテ今日ニ至リ復タ如此其
王族ヲ西班牙國ノ王位ニ昇ラシメントスルハ
前言ヲ踐マサルモノト謂フ可キナリ
佛國ノ政府ニテハ自國ノ商人ノ為メ商品ヲ積
入レタル敵國ノ商船ニ戦書ヲ送ヲサル内ニ佛

毎ト新開
八
大學南交

海外新聞
國ノ港内ニ来リ免状ヲ得テ安全ニ歸國ヲ為ス
可シト布令シ又現今佛國ノ港ニ在ル敵國ノ商
船ハ三十日間ニ出帆ス可シト布令セリ

海外新聞二號終

海外新聞三號

千八百七十年第八月二十日 我七月廿四日横濱刊
行每週新聞ヨリ抄出ス

佛普兩國戰爭ノ說

兩國ノ戰爭ノ如キ方今猶未ダ歐洲ヨリ詳悉ノ
新聞ヲ得ザルヲ以テ其原由及ビ勝敗ノ顛末ヲ
モ明亮ニ陳述スルヲ能ハズ且此釁端ヲ開クノ
責ハ兩國政府ノ中果シテ何レニ歸セリトスル
ヤ是亦辨シ難キナリ余今新聞ヲ得ルノ地及ビ

海外新聞
大正二年

戦争ノ地ヨリモ殊ニ遠隔ノ所ニ在リテ強テ之
 ガ説ヲ詳明ニセントスル時ハ遂ニ臆度ノ妄説
 ヲ以テ世人ヲ欺クニ近カラン故ニ唯略説ヲ左
 ニ掲載セリ蓋シ普ノ方正理ナレバ遂ニ戦勝ノ
 利ヲ獲可シト唱ノル者ノ如キハ必ヤ普人又ハ
 日耳曼人ニシテ又佛ノ方正シク佛兵勝算アリ
 ト云ヘル者ハ多クハ佛人タルニ過ギズ畢竟其
 國ノ人民ニシテ自國ノ曲直及ビ兵勢ノ強弱ヲ
 説ク者ノ公平至當ノ論ニ歸スルガ如キハ未ダ

之アラザルナリ夫佛普兩國ノ人心概シテ皆遠
 大ニ馳セテ常ニ兵事ヲ好ミ勉メテ富國強兵ニ
 注意シ自國ノ利權ヲ増シ其名譽ヲ五洲ニ顯赫
 ナラシメンコトヲ期望セリ故ニ兩國共ニ其兵隊
 ト兵制トニ於ル十分完備シテ間然ナカルベキ
 モノトス且普國ニテ北方日耳曼列國ヲ合同シ
 自カラ其會首トナリシヨリ以來ハ佛普兩國ノ
 政府及ビ人民互ニ相忌惡スルノ意ヲ生ズルコ
 兩雄相競フノ習ニシテ又巴ムヲ得ザル者ト謂

フベシ
 此度ノ大騷乱ノ起リシヲ恐怖慨歎スルノ餘
 リ今思慮ヲ費シ之ヲ公平ニ論ズルニ普ノ近親
 タルホーヘンノルレルン侯ヲシテ西班牙ノ王
 位ニ昇ラシメント欲シ若シ普ヨリ佛ニ報告ス
 ルトアラバ佛ニ於テハ断然之ヲ忌ミ拒マン
 必セリ又ホーヘンソルレルン侯日後決シテ再
 ビ西國ノ王位ニ昇ルヲ欲セズトノ旨ヲ普ニ
 テ保証ス可シト佛ヨリ普ニ言送ルトモ若シ之

ヲ諾セバ國耻トナル可シト普ニテ之ヲ拒ム可
 キトヤ又必セリ斯ク双方共ニ一箇ノ道理ヲ有
 セルヲナレバ此等ノ辯論ニ就キ佛ヨリ普ニ送
 リタル書中ノ言詞ノ模様ニ因テ何カ直何カ曲
 タルヲ審判ス可キナリ諸此度余等ニ達シタ
 ル傳信機ノ新聞ニ據レハ英ノ政府ニテハ其責
 ヲ佛ノ方ニ歸スルニ似タリト雖モ之ヲ熟思ス
 ルニ普ノ一王族ノ西國ノ王位ニ昇ラントスル
 ヲ佛帝ノ拒ミタレバトテ斯ク佛ヲ咎ムルノ理

アルト無ケン然ラバ則チ其咎ムル所ハ全ク佛
 帝ノ論書中ノ文体ニ在ル可キヲ知ルベシ
 此大騒乱ノ如キ全ク佛普兩國ノ際ノミニ限レ
 ル時ハ歐洲ノ為ニ大ナル幸福ト謂フ可シト雖
 モ其景況ヲ察スルニ遂ニ兩國ノミニ止ム可
 カラザルニ似タリ夫魯西亞政府ト普國政府ト
 ハ從前ヨリ親睦和交ノ情ヲ結ビ共ニ墺地利ヲ
 惡クシカバ若シ佛普兩國ノ戰爭起ル時ハ魯國
 ニ於テハ其害ニ乘ジテ從來蠶食セントスル土

耳其ヲ謀ルノ時機ヲ得ルヲ以テ魯ノ普ノ黨与
 スベキトハ豫メ推知ス可キナリ又墺地利現時
 ノ向背ハ豫メ之ヲ決定セシハ甚ダ難シ後日
 戰ノ模様ニ依リテ判然定ムルヲ得ベシ何ン
 トナレバ墺國ハ近年普ノ為メニ敗歟セシトテ
 讐言怨スルノ意アリト雖モ其國中諸般ノ人種ヲ
 糾合シテ方今日耳曼ニテ最大強國タル普國ト
 戰ハントスルト極メテ難カル可シ又薩索尼ハ
 千八百六十六年我慶應ノ戰ノ時ニ於テハ普ト

海小行月

四 大學南交

仇敵ナリシガ此度ノ舉ニ臨テハ何ゾ圖ラン普
 ニ与レテ之ガ為ニカヲ盡シタリ又巴威里亞ハ
 嘗テ佛國ノ与國トナリシニアリシガ拿破崙第
 一世帝ノ暴威ニ畏レ德停ノ戰已後ハ佛ノ敵國
 ニ黨与シタリ故ニ此度ノ戰ニ於テモ中立ヲ為
 スニ非ザレバ必ズヤ佛ニ敵ス可キナリ又以太
 利政府此迄佛國ニ於テ羅馬教皇ヲ援ケタルノ
 故ヲ以テパッサロ岬以太利ノ南ヨリア卑斯山太
 利ノ北方ニ至レル迄其全國ヲ一紡管轄スルノ
 在リ

意ヲ終ニ果サザリシカバ此度ノ戰ニ乘ジテ其
 意ヲ逞フセント欲シ多クハ普國ニ与スルナラ
 シ
 前述スルガ如ク此戰ノ勝敗ハ固ヨリ逆メ期ス
 可ラズト雖モ兩國共ニ戒心スベキノ要件アリ
 普ニテ寂モ注意ス可キハ佛國ニテ其國境ヲ葉
 沿河ニ至ルマデ廣メント欲スル元來佛ノ夙
 望スル所ニシテ方今ノ佛帝ニ於テモ亦一大眼
 目ト為セリ又佛ニテ注意スベキハ若シ一國

ヲ以テ歐洲ヲ屨シ威權ヲ擅ニセントスル時ハ
 各國舉テ之レガ敵トナリ其威カラ挫ンガ為ニ遂
 ニ合力連衡シテ仇視スルニ至ル可キナリ

千八百七十年第八月廿三日 我ヒ月廿七日 横濱刊

行佛文新聞紙 エコー、チヤ、ポント云フ ヨリ抄出ス

キヤクシノ魯西亞ノ府名 ヨリ達シタル第七月二十六日

我六月ノ傳信機ノ報告ニ據ルニ佛普兩國騷乱
 ヲ生ゼシ以來本日ニ至ル迄未ダ一度モ兵端ヲ
 開キ大戦ハ勿論小戦トテモアラザリトナリ
 佛ト普トノ際ニ騷擾ヲ醸シ戦争ニモ及ブベキ
 一ヲ初メテ告知シタル新聞ニハ魯西亞ハ普ニ
 左袒シテ同盟トナリ奧地利ハ佛ニ属シテ与國

トナルベシト記載シタリシガ其後ノ信ニテ魯
嶼ノ兩國共ニ全ク中立タルヲ知レリ

英人書翰ヨリ譯出ス

今度魯西亞政府ニ於テ太平洋近キ領地ノ處置
ヲ大ニ變革セントスルニ就キ其第一注目スル
所ハ柯太^{カラタ}ニ在リテ此島ハ魯國ノ東ニ當リ最先
ニ突出スル地ナレハ之ヲ全ク我有ニセントス
ルニ在リ然ルニ即今此島ハ魯國ニテ盡ク之ヲ
領シ唯南方ノ地僅ニ日本人ノ開拓スル有ルノ
ミ此開拓ハ往ニ下田條約ニ於テ決定スル所ナ
リシガ魯國政府ニテハ日本ヨリ條約以外ノ地

ヲ開拓スルニ至レルトモアラシカト忒念セリ
トナリ抑、柯太ノ産物ハ石炭ニシテ之ヲ多ク出
セル山アリ故ニ魯國政府ヨリ罪人ヲ遣シ之ヲ
堀ラシメ其警衛トシテ兵隊ヲ出シ漸次ニ其人
眞ヲ増シ日本人ヲシテ其地ニ進マザシメン
トノ備ヲナセリ彼レ以為ラク若シ日本人ト魯
人トヲシテ相共ニ之ヲ堀ラシムル時ハ其間必
ス故障ヲ生スルトアリテ遂ニ大事件ヲ醸サン
トモ計リ難シト其實ハ此地ノ石炭ヲ堀ルトモ

陰ニ日本政府ヘ之ヲ慫慂スル者アリト聞レヨ
リ斯ク兵隊ヲ備ヘテ豫シメ之ヲ拒ミシナリ或
説ニ畢竟魯國近クノ地ヘ日本人ヲ差向ケ開拓
セシムルトハ事理ニ迂濶ニシテ國益無シモノ
ナリト其故ハ是等僻遠ノ地ハ唯魯國ニ在リテ
之ヲ領セハ利アランノミ其他歐洲國々ニ於テ
モ之ヲ得テ其利無ルベシ然ルヲ開拓ノ事アル
ハ隣國相友昵スルノ道ニ背キ彼レノ國益ヲ妬
ム、私心ヨリ生スルモノト謂ンカサレバ魯國

政府ニ於ル爾後事件突起スルヲアリテモ處置
レ易カラシメコト一島ヲ盡ク其國ノ版圖
ニ歸セシメ一旦爭亂起ルヲアリテモ本國ト其
島トノ道路梗塞ノ患ニ無ンカ為メニ其地ノ兵
隊ヲ十分ニ備フルノ形状有リトナリ

海外新聞三号畢

海外新聞四號

千八百七十年第八月二十四日 我七月廿八日横濱
刊行 ジャッパン、ヘラルド 新聞ヨリ抄譯ス

傳信機ノ報告

第七月二十九日 我七月 錫蘭島ガール府ヨ
リ達ス

本日午後第四字倫敦ヨリ

佛ノ先陣ト普ノ先陣トノ間ニ小戦アリテ双方
共ニ騎兵ヲ以テ劇戦ニ及ヒタリシガ遂ニ互ニ

海外新聞 大島南校

勝敗無リシ

魯西亞ト以太利ノ兩國ハ中立タルヲ布令シ

タリ按スルニ第二号ニ魯ハ普ニ與セル旨ヲ記セシハ全ク傳聞ノ誤タルベシ

佛ノ兵隊今迄以太利國ノ羅馬府ヲ警固シタリ

シガ此度ノ戦争ニ就キ其地ヲ引退キシカバ以

太利ノ兵之ニ代リテ其警固ヲ為セリ

佛帝拿破崙破密メツツニ出陣セントスル期ニ先タチ

太子ヲ携ヘテ巴勒府ノ大寺院ノ一トトルダーム

ニ至リ拜禮ノ式ヲ行ヒタリ是帝ノ意ニ此度ノ

行軍ニハ太子ヲ共ニシ戦陣ノ指揮進退ニ預ラ

シメントテナリ又帝ノ議院ニ告諭セルハ此度

ノ舉ハ實ニ己ムヲ得スシテ如此形勢トナリ

シナレバ各奮發勉勵シテ戦ヲ為スコシトナリ

方今普ノ兵既ニ佛ノ地ヲ攻撃シ巴丁トバドイン靈森堡

トノ間ニ在ル鐵路ノ中數ヶ所ヲ毀チ且橋ニケ

所ヲモ毀チタリ

佛ノ商船ハ北日耳曼ノ兵船ノ為メニ掠奪セラ

ル、ノ患ナカル可シト普ヨリ之ヲ布令シタリ

現今佛ノ兵船隊ハ連國首都哥卑合給ニ碇泊セ

リ

佛政府ニテハ帝ノ出陣中ハ皇后ユウゼニ一代
リテ攝政ノ職ニ居レリ

佛政府ヨリ兵隊ヘノ告諭ニ此度ノ戦ハ攻撃ス
可キノ敵城多キヲ以テ速カニ利捷ヲ獲ン₁難
キニ似タルモ戦ノ勝敗ハ兵士ノ勇怯ニ在レバ
各氣ヲ勵マシ勇ヲ奮テ戦ニハ勝利アラ₁ン₁
必スベシトナリ

第七月三十日 我七月三日 倫敦ヨリ

英國執政ヲイルゲレンウールハ佛普兩國ノ間
互ニ戦書ヲ投シタル以前ノ事情ヲ知リテ詳細
ニ陳述シタリ其説ニ初メ英ヨリ普王ニ其親族
ホーヘンソルレルン侯ノ西班牙王位ニ昇ラン
ト欲スル₁ヲ廢止スベシトノ布令ヲ為シ此事
件ハ總テ英ノ所置ニ任ズベキ旨ヲ言送リシニ
佛普共ニ之ヲ拒ミタレバ更ニ英ヨリ各國全權
輩ノ會議ヲ為サシメ輿論ニ歸スベシトノ₁ヲ

言送りシニ是亦佛普共ニ肯ゼズシテ遂ニ此事
行ハレザリシトナリ

ワールグレンウィール又曰ク此度ノ戦ニ於ル勝
敗ノ景状ニ依リ英ニ於テ如何ノ處置ヲ為シテ
可ナランヤ今之ヲ預メシ難シト雖氏畢竟唯國
威ヲ失ハザルノ法ニ據リテ中立ヲ守ルニハ如
ジトナリ

ジュールナルヨビシエールト云ヘル新聞紙ニ普
國ノ首相コウントビスマルクヨリコウントベ

ルンストッフニ告知セシトアルハ兼テ佛ヨリ我
普ニ兩國互ニ領地ヲ増シ等シク其利ヲ獲ント
ノトヲ屢言來レルトアリトナリ

巴勒ノ要害ニ設ケタル砦營ヲ猶一層堅固ニナ
サンガ為メ之ガ修繕ヲ始メタリ

國境ニハ猶數度ノ小戦アリテ止ムト無シ

英ノ新聞紙ニ記載セルハ英國ニハ兵備ヲ十分
ニ整ヘテ嚴ニ中立ノ法ヲ守ルニ在リト

英ノ政府ニテハ兩國戦争ニ就キ預備ノ為メニ

海陸軍ノ用意ヲ為シ且一週前ニ布令シテ議事院ノ集會ヲモ為サシメントセリ

昨日ハ戰鬪ノ事無リシ○日耳曼ニテハ士民皆奮發シ政府ノ軍備ヲ扶ケンガ為メニ許多ノ金高ヲ出スニ至レリ

第七月三十一日我七月四日倫敦ヨリ

普ノ官報ニ佛兵第七月三十日我七月三日ノ朝ニ方

リサールブリュク普ニ屬ヲ烈シク襲撃シ其兵數

普兵ヨリモ多カリシガ遂ニ之ヲ撃退スルヲ

得タリ

千八百七十年第七月二十三日我六月廿五日米利

堅桑方西斯哥刊行ノ每週新聞ヨリ抄譯ス

米利堅ノ各部ニ在ル日耳曼人ハ此度ノ戦ヲ聞

キ本國ニ歸リテ戦隊ニ加ハラントヲ思ヒ皆勇

ミ進ンテ數百人宛乗船シテ歸國ヲ促セリ

米利堅ノ陸軍將セリダン近年南北部ノ戦其附

屬ノ士官數人ヲ率ヒテ歐羅巴ニ赴キ戦争ノ様

ヲ目撃センガ為既ニ出船ニ及ヒタル由ナリ

米利堅ニ於テモ普佛ノ戦ニ就キ豫メ中立ノ備
 へヲ為サンガ為メニ俄カニ海軍ノ用意ニ及ヒ
 タリ
 佛ニテ断然普ト戦ヲ始ム可キノ事ヲ國民ニ布
 令シ且其問罪ノ師ヲ出スノ條件ヲ示セルハ我
 佛ノ公使ベ子デッチニ普人ヨリ大ニ耻辱ヲ與ヘ
 シ時普ノ政府ニテ其所業ヲ許シテ為サシメシ
 一ホーヘンソルレル侯ノ名ヲ西班牙國王ノ位
 ニ昇ラントスル者ノ名簿中ヨリ除去スル一ヲ

佛國ヨリ言送ルト雖モ普王遂ニ肯セス剩へ其
 侯ノ西國ノ王位ニ昇ラントスルヲ許ス一等ニ
 在リ又其布令書ノ末文ニ載タルハ此度普國ノ
 大變革ノ状情ヲ以テ察スルニ千八百十四年ノ
 時ノ如ク再ヒ佛國ヲ侵サントスルノ密計アル
 一ヲ知ルニ足レリ故ニ今我佛國ノ士民等彼ニ
 先タチテ萊泥河ヲ渡リ普ヲ十分ニ侵撃シ我國
 ニ受ケタル恥辱ヲ雪カント此一舉ニアリ何ソ
 彼ヲ恐ル一アランゼナ
 佛帝第一世拿破崙ノ
 大ニ普兵ヲ敗リタル

地ノ兵士ハ今猶在リト

普國ノ議院ニ於テ集會ヲ為シ其議員等舉テ王ノ此度ノ所置宜シキヲ得タル旨ヲ賛成シ因テ國界防禦ノ為メニ必用ナル金高ヲ政府ニ納ム可キヲ決議スルニ至レリ

普國人ハ皆大奮發ニテ義勇兵ニ加ハル者尤モ多ク國中ノ男子ハ舉テ銃ヲ提ケ意氣揚々トシテ戰ニ赴カンヲ望メリ

倫敦刊行ノタイムスト云ヘル新聞紙ニ記載セ

ルハ普ノ戰ヲ起セル全クノ原由ハ萊尼河邊ノ佛ニ屬スル數州ヲ我ニ復セントスルニ在リト是レ至當ノ舉ナレハ万國之ヲ非議スル者無ケ

佛ノ巴勒ニ於テモ亦士民奮激シテ戰ニ從事セ

伯靈在留ノ佛公使ベ子デッチ及ヒ巴勒在留ノ普公使ウエルチール共ニ其在留ノ地ヲ去リテ各本國ニ歸レリ

此度ノ戦ニ普ノ方ハ施條大砲ヲ用ヒ佛ノ方ハ一分時間ニ四十箇ノ彈丸ヲ發スル旋轉ス可キ大砲ヲ用ヒントストナリ佛ノ兵隊日ニ其國境ニ進ミ二十八万ノ兵士速ニ日耳曼ニ侵入セントスルノ勢ヒナリ佛ノ小兵船萊尼河及ヒ普國中ノ河ニ乘入リテ攻撃セントシ陸軍ト同時ニ戦ヲ始ムルノ景状ナリ

瑞典等ノ國々ハ中立タル可シ

佛ニテハ此度ノ戦ニ創傷ヲ蒙レル兵士ヲ扶助セントテ豫シメ富有ノ者數人會社ヲ結ヒ許多ノ金高ヲ集ルニ至レリ佛ノ皇后ヨリモ亦五万フランク凡我一万兩許リニ當ルノ金高ヲ出シタリ

海卜所開
八
大學南交

海外新聞四號畢

海外新聞五號

千八百七十年第七月二十三日我六月廿五日米利

堅サンフランシスコ方西斯哥刊行ノ毎週新聞ヨリ抄譯ス

第七月十九日我六月廿一日巴勒ヨリ

本日刊行ノジエールナルヲヒシアルト云ヘル

新聞紙ニ荷蘭近日ノ模様ニ依リ左ノ説ヲ載記

ンタリ夫レ普ノ荷蘭ヲ侵奪セントスルノ宿意

アルトハ人皆知ル所ニシテ往ニ普ノ首相ビス

マルク兵力ヲ以テ連國ヲ壓服セシガ荷蘭ヲモ

亦如此暴擊シ之ヲ北日耳曼所屬ノ一國ト為サ
ンテヲ企望シタリ因テ貿易ノ便宜ヲ口實トシ
既ニ普ノ租稅官吏ヲ安特堤ニ置カントスルニ
至リシカバ先年盧森堡ノ議論起リ頃盧森堡
第一号ノ緒リキセンビユル荷蘭人撃テ普ノ侵撃ヲ防カンカ為
言ニ出ツハ大ニ奮激センテアリ然レトモ若シ當時佛ニ
テ断然普ノ處置ヲ拒ムテ無ンニハ荷蘭ハ普ノ
為ニ殆ト危クシテ其自之ヲ保タンテ測リ難シ
故ニ此度ノ戰ニ就テモ荷蘭政府ハ主トシテ戰

ノ景状ヲ遠察注意シ其國益ヲ失ハザル様專ラ
防守ノ豫備ヲ為スニ至ンノミ
巴勒及ヒ近傍ノ諸州ニ於テ募集シタル義勇兵
ノ數既ニ十萬人ニ及ビタリ然ルニ佛人中ニモ
猶普トノ戰ヲ好マザル者アリテ其黨千人餘モ
巴勒ノ市街ニ集リシガ兵士ヲ以テ之ヲ追走シ
タリ
或說ニ佛ヨリ普ニ言送レルニ此度ノ戰ニ普兵
若シ破裂彈ヲ用フルテ無ンバ我佛兵ニ於テモ

海小折開 五 大學南校

亦之ヲ用フマジトナリ

第七月二十日我六月廿二日倫敦ヨリ

佛ト日耳曼トノ間ニ掛ケタル傳信機ハ皆之ヲ
截断シタリ吐耳其ニ於テモ備急兵ヲ募リタリ

同日巴勒ヨリ

佛ノ皇族プリンスナボレヲンハ波羅約海日耳曼北

方ノ海ニ赴キ其率ヒタル陸軍ヲ以テ副水師提督

ト共ニカヲ合シテ阿諾威ヲ一舉シテ攻取ラシ
トセリ

同日倫敦ヨリ

萊泥河ノ邊ヲ經テ英ニ歸國セル者ノ説ニ日耳

曼ノ兵士ハ沈重ニシテ常ニ靜密ナリシガ佛ノ

兵士ハ動モスレバ酔倒シテ喧噪ニ及ヘリ

同日哥羅尼普ノ府名ヨリ

佛ノ兵昨夕サールブリック近クノ國境ヲ越エ普

ノ運上所ヲ掠奪シタリ

千八百七十年第七月三十日我七月三日刊行同

上新聞紙ヨリ抄譯ス

洋夕新聞
三
大島南村

第七月二十一日 我六月廿三日 華盛頓府ヨリ

普國ノ公使本國ヨリ得タル報告ニ佛政府ニ於テハ戦争ニ及ベルヲ知ラズンテ佛ノ港ニ入りタル普ノ蒸氣船ヲ除クノ外ハ普ノ蒸氣船ノ如キハ盡ク之ヲ掠奪スベント布令シタリトナリ

同日倫敦ヨリ

佛兵陣取ノ方法ニ付キ左ノ報告ヲ得タリ現時佛兵チランウイールスタラスブールメイヤニスノ三所ニ據テ屯集シ又スタラスブールノ南方ベ

ルホント云ヘル地ニモ陣ヲ取リ又レヤロンノ地ニモ後陣ヲ備ヘタリ然レテ其所々ニ在ル全軍ヲ八隊ニ分チ其各隊毎ニ歩兵三四ガウイジラ
ン隊及ヒ騎兵六レジメント隊ヨリハレジメン
ト隊ヲ以テシ又其各ジウイジョン隊ニ大砲三バツテ
リ一坑兵一小隊ヲ備ヘ其戦士ノ數ハ一万ヨリ
一万二千人ニ至レリ
諸其將帥ノ分配ハマルシヤ
ルバセイ又ハモゼール河邊ノ兵ヲ指揮シマル
レヤルマクマホンハ菜尼河邊ノ兵ヲ指揮シセ子

毎小新聞
五
大島南村

ラールハイレイハ其二隊ノ中間ニ在ル兵ヲ指
揮シテ應接ニ備ヘ又マルシャルカンロベルハ
シヤロンニ在ル後陣ノ總督ニ居レリ
阿諾威人三百人許リ佛兵ノ中ニ加ハリタリ
土耳其ヨリ佛政府ヘ言送リタルハ佛ニテ若シ
俸給ヲ出スヲアラバ土ヨリ二十万人ノ兵士ヲ
貸ス可シト
羅馬ノ報告ニ教皇ハ公然ト普ヲ援クニ欲ス
ルノ意アリトナリ

同日伯靈ヨリ
普ニテハウエセルノ北日耳曼河ニ佛ノ兵船ノ進
入スルヲ拒ガンガ為ニ其河口ニ在ル舊船ヲ沈
没シタリ
同日巴勒ヨリ
方今普人ノ佛ノ領地内ニ在ル者佛ノ害ヲ為ス
ニ至ラサレハ其儘在留シテ故障無ル可シト佛
政府ニテ決議シタリ尔後普人及ヒ普ノ與國人
ノ佛ノ領地内ニ入来ラントスル者ハ佛政府ヨ

海小所册 五 大學南校

リ特ニ免許ヲ得ベシトノ事ヲモ決定シタリシ
第七月二十二日我六月廿四日巴勒ヨリ
ハトリート云ヘル新聞紙ニ本日魯西亜帝ヨリ
佛政府へ送リタル書ニ佛普兩國共ニ此度ノ事
件如何ニモ決議急速ニシテ既ニ戰期ニ及ヒタ
レバ我魯ニ於テ之ヲ勸解スルノ機會ヲ誤リ今
更歎息ニ堪ヘス因テ我魯國ニハ兩國何レヘモ
左祖スルヲ無ク國害ニ及ハサル間ハ中立スル
ニ在リ然レトモ速ニ平和ニ至ラニテヲ思ヒ勉

ノテ盡カスベシト言送リタリ

第七月廿三日我六月廿五日新約克ヨリ

此度ノ戰ニ佛普兩國共ニ兵隊ヲ操出スト甚タ
遅緩ナリニガ殊ニ普ハ戰事全ク不意ニ起レルヲ
以テ其兵ヲ集ムルト更ニ佛ニ後レタリ然レト
モ爾後普人ノ銳氣日ニ加ハリ勇進シテ一旦勝
ヲ得ル時ハ其機ニ乘シテ直ニ巴勒府ニ迫ラン
トスルノ勢アリ

普國ゴットンゲンノ大學校ヲ閉チ學生皆舉テ兵

隊中ニ加リタリ其他ノ學校モ不日ニ閉ツルナ
ラン

同日伯靈ヨリ

普國太子フレデリック、ウイルレムハ普兵左翼ノ總
督ニ任シ王族フレデリック、チャールレスハ中軍ヲ指
揮シホン、ビッテンヒールドハ右翼ヲ指令シ又
子ラールホン、フアケンスタインハ海岸ノ防禦
ヲ任シビラールデレイスハ萊尼河邊ノ先陣
ヲ指揮セリ又普ノ兵皆舉テサールブリックニ集

合セントセリ

同日倫敦ヨリ

本日巴勒ヨリ達シタル傳信機報告ニ普兵カ
チング佛ノ屬地ニテ佛兵ノ為メニ返撃セラレシガ
佛兵其虛ニ乘シテ普ノ地ニ進ミ斥候ヲ為シタ
リ

第七月廿四日

我六月廿六日

コブレントツ府

普ノ府名ヨリ

普兵本日サルレルイス普ノ府名ヨリ佛ノ國境ニ進
ミセント、アウラト佛ノ府名及ビメツ同上ノ方ニ
候

ヲ為シ既ニ少シク進ミタル時佛兵ノ前陣タル
一小隊ニ會シ佛ノ騎兵ト一戦ニ及ヒタリ普兵
ノ死傷ハ絶カニ人ニ過ギサリシガ佛兵ノ死傷
八十人餘ニ及ビシナラントナリ
第七月廿五日 我六月 倫敦ヨリ
倫敦刊行ノタイムスト云ヘル新聞ニ往ニ佛ト
普トノ間ニ既ニ取結バントセシ密條約ノ事件
ヲ記シタリ其餘約ハ佛ニテ近年普ノ所得ト為
レタル利益ヲ妨ルヲ無ク許諾シ且南北日耳曼

ヲ合同セントスルヲモ諾セリ又普ニテハ佛
ノ比利时及ヒ盧森堡ヲ得ントスルヲ援カシ
且兩國互ニ其親睦和交ヲ結ビテ何事モ互ニ公
同ノ處置ヲ為スベシトナリ此條約ニ就テハ英
人皆大ニ怒ヲ起スニ至レリ然ルニ佛ノ公使ハ
是等條約ノ事決シテ之有ルヲ無シト強テ辨シ
タレ氏既ニ比利时政府ニテハ近日其條約ノ有
リシヲ了知シタリトナリ
同日コブレントヨリ

毎小新聞 五 八 大學南交

昨曉第四時ニ普兵メツツ府ヨリ五十里英法隔タリ
タル地ニテサールゲミース佛ノ邊リ近クヨリ
佛ノ境ニ進ミ佛ノ騎兵ト會戰セシガ其後遂ニ
スタラスブルトセントアウラドトノ間ニ在
ル鉄路ヲ毀キ或ハ橋ヲ毀キ其地ヲ狼藉シテサ
ールブリックニ引退キタリ

同日伯靈ヨリ

昨日普兵佛ノ境ニ進ミ入りグレクンウレルノ
辺ニ近クニテ佛ノ兵ニ會シ烈シキ小戰アリ佛

兵ノ死傷十人許モ之レ有リレガ普兵ハ一人モ
死傷無リシ於是カ針打銃ノシヤセツポ一銃ニ優レ
ルヲ知ルベレ

普兵ノ一小隊スリクリンゲンノ佛ノ運上所ヲ
掠奪シタリ其所ノ官吏等頗ル盡カシテ防戦ニ
及ビレガ或ハ殺サレ或ハ生擒セララル、ニ至レ
リ

第七月廿六日 我六月廿八日巴勒ヨリ

昨夜佛將ルビユーフヨリ國帝ニ傳信機ヲ以テ報

告シタルハ普兵スタラスブールノ東ナイテル
フロウント云ヘル地ニ斥候トシテ来リシカ佛
ノ世子テールベルチスノ兵之ヲ追卻シ其士官
一人ヲ殺シ二人ヲ生擒シタリ

海外新聞五号畢

官版御用御書物所

東京本町四丁目

紀伊國屋源兵衛

